

石を抱くエイヤマン (2)



濱野京子

夏目尚吾・絵

〈前号のあらすじ〉

八乙女市子、通称「姉さん」は、95年生まれ、茨城県の公立中学三年生。家中の辞書から「希望」を切り取った翌日、現実的な「夢」をゆるく語り合う班メンバーの中、「変人」高浜偉生は日本一の鉱物学者になるという。その偉生が言った。「姉さんのことが好きだから、つきあってください！」

ヒューと口笛が鳴る。歓声が起こる。机をたたくばかり、足を踏みならすならず者。こんなにたくさん、教室に残っていたのか？

「うるさい」

と怒鳴り、あたしは足早に教室を飛び出した。呼び止める声をはじめ飛ばすように、廊下を走り、階段